



平成 30 年度 児童福祉施設経営セミナー

- 子ども・家庭支援のあり方と専門性向上をめざして -

主催： 独立行政法人福祉医療機構
日時： 平成 31 年 3 月 8 日（金）
場所： AP 虎ノ門（東京都港区西新橋）

社会構造の変化とともに、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化し、子どもの育ちを支える仕組みを家庭だけではなく、社会全体で支えることが求められるようになりました。そして、平成 28 年に改正された児童福祉法では、子どもが権利の主体であることが明確化され、家庭養育への支援から社会的養護支援まで広くすべての子ども・家庭支援の充実を図ることが記されたところです。

また、平成 29 年 8 月に制定された「新しい社会的養育ビジョン」、および本年 7 月に発布された「都道府県社会的養育推進計画の策定要領」では、何らかの事情で実親の養育が困難である場合に実施する代替養育や特別養子縁組の推進をはじめ、児童養護施設や母子生活支援施設等、施設の小規模化・地域分散化を進める方針がなされました。加えて、児童相談所、児童家庭支援センターを中心に、パーマネンシー保障、自立支援、フォスタリング機能の強化等、子どもの生涯にわたる長期的支援のあり方等が示されたところです。その実現には、様々な機関・機能の密な連携が必要不可欠であり、とりわけ長年、社会的養護を担ってきた施設関係者においては、その専門性を地域に広めていく機会が増すものと思料されます。同時に、同ビジョンにおいては、妊娠期からの切れ目ない支援も重要であると提唱され、母親をはじめとした「家庭」の教育・支援が、虐待や貧困の世代間連鎖を防ぐうえで重要であると再認識されています。

そこで今回のセミナーでは、ライフサイクル支援の重要性と、子どもの最適の利益とはなにか、また社会的養育の専門家として今できることは何かについて、実践事例に触れながら考えていきたいと思います。

9 : 00 ~	受付
9 : 50 ~ 10 : 00	オリエンテーション 開会のあいさつ
10 : 00 ~ 11 : 10 (70 分)	「これからの社会的養護について考える」 <講師> 関西大学 人間健康学部 教授 山縣 文治 氏
11 : 10 ~ 11 : 20	休憩 (10 分)
11 : 20 ~ 12 : 30 (70 分)	「ライフサイクルから考える切れ目ない支援 ～ 妊娠期からの虐待予防と世代間連鎖の解消に向けて ～」 <講師> こころとからだ・光の花クリニック 院長 白川 美也子 氏
12 : 30 ~ 13 : 30	休憩 (60 分) ~ 融資相談会 ~
13 : 30 ~ 13 : 40	「福祉貸付事業の概要について」 <説明者> 独立行政法人福祉医療機構 福祉医療貸付部
13 : 40 ~ 14 : 50 (70 分)	「子どもの最善の利益とは ～ 施設の小規模化・高機能化・多機能化 及び地域分散化が求められるなかで ～」 <講師> 社会福祉法人北翔会 総合施設長 札幌すぎな園 統括施設長 大場 信一 氏
14 : 50 ~ 15 : 00	休憩 (10 分)
15 : 00 ~ 16 : 10 (70 分)	「自立支援と社会的養育を担うスタッフの役割 ～ 社会で孤立しないためのインケア・アフターケア ～」 <講師> 社会福祉法人二葉保育園 常務理事 二葉学園・二葉むさしが丘学園・トリノス 統括施設長 武藤 素明 氏